

# CASBEE とっとり

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2008年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.0)

## 評価結果

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	独立行政法人 国立病院機構 米子医療	階数	地上 5F		
建設地	鳥取県米子市車尾4-17-1	構造	RC造		
用途地域	都市計画地域内市街化調整区域 用途)	平均居住人員	130 人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,880 時間/年		
建物用途	0	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2011年2月 予定	評価の実施日	2010年5月28日		
敷地面積	1,205 m <sup>2</sup>	作成者	渡部		
建築面積	540 m <sup>2</sup>	確認日	2010年5月31日		
延床面積	2,337 m <sup>2</sup>	確認者	中林		



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B': ★★★★★ C: ★

### 2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 屋外については、設備機器周囲を防音目隠しフェンス等で高い周囲からの視認性を配慮するとともに南側住居からの1F事務室内が見えない様に目隠しフェンスを設置しました。屋内については主教室を南側へ配置し、水廻り等は北側へ配置する事により総合的な環境に配慮しました。	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
<b>Q1 室内環境</b> 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。教室等での作業効率を上げるため、光・視環境へ配慮しました。	<b>Q2 サービス性能</b> 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。バリアフリー性に配慮し、どのような人でも利用できる計画にしました。
<b>LR1 エネルギー</b> 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。省エネルギー性での配慮を行い、また運用管理体制の働きかけ(提案)を心がける。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。グリーン購入法適合品の採用や騒音等により節水での水資源保護に配慮しました。
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。他の建築物また周囲の景観に調和した計画とし、外部との境界線にはフェンスを設け防犯性・防災性に配慮しました。	<b>LR3 敷地外環境</b> 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。適切な量の駐輪スペースを確保し通学者への配慮をし、また駐車場から玄関へのアプローチを出来るだけ短くし、外部からの来客者への配慮をしました。また周辺環境への配慮をします。

### 4 重点項目

重点項目	得点	取組み度
県産材利用の推進	点 / 10点	
鳥取県認定グリーン商品利用の推進	点 / 25点	
自然エネルギー変換利用の推進	点 / 25点	
敷地内緑化の推進	点 / 25点	
合計	点 / 85点	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築物環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと